

家畜衛生情報誌

『 一 支 国 』

2013. 秋号



(H25.9月 吉岐動物愛護フェスティバルにて)

吉岐振興局農林水産部 吉岐家畜保健衛生所

〒811-5734 長崎県吉岐市芦辺町国分本村触1385-1 TEL : (0920)45-3031
E-mail : s13230@pref.nagasaki.lg.jp FAX : (0920)45-3386

～Website～

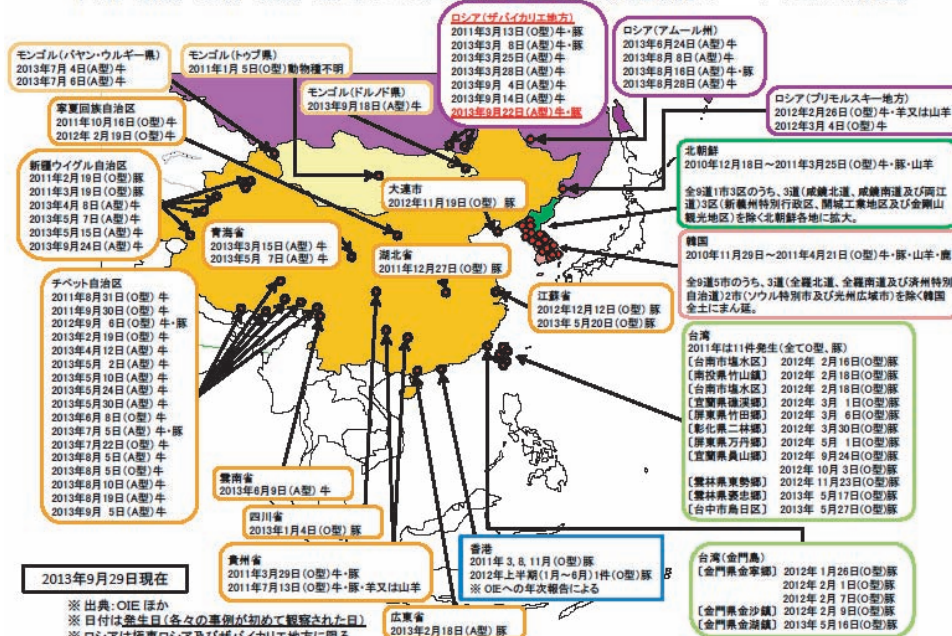
<http://www.n-nourin.jp/ah/agrilink/hukyuu/iki/kakuka/3iseika.html>

海外における口蹄疫および鳥インフルエンザ発生状況

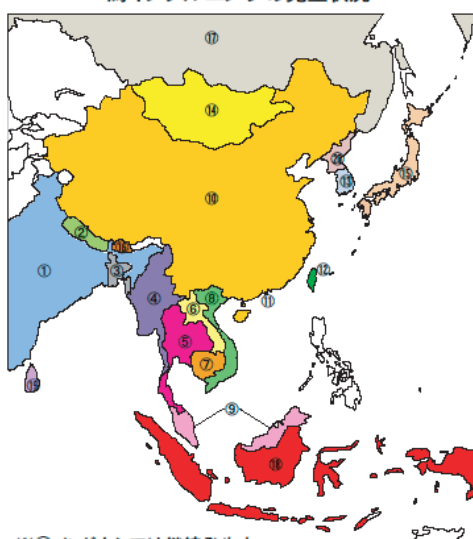
口蹄疫については、東アジアを中心に依然として発生が継続している状況であり、引き続き、国内へのウイルス侵入に対する警戒が必要です。また、鳥インフルエンザについても、中国、台湾、北朝鮮等我が国の近隣諸国で発生が確認されており、さらに、今後は本格的な渡り鳥の飛来シーズンとなるため、ウイルスの国内侵入リスクがこれまで以上に高くなることが予想されます。

農場内への病原体侵入を阻止するため、各農場における飼養衛生管理について再度見直しと徹底をお願いします。

中国、香港、台湾、韓国、モンゴル、ロシアにおける口蹄疫の発生状況 (2011年1月以降の発生)



アジアにおける高病原性及び低病原性鳥インフルエンザの発生状況



2013年9月23日現在

出典: OIE WAHID 他

	① インド	② ネパール	③ パンジャブ	④ ミャンマー	⑤ タイ	⑥ ラオス	⑦ カンボジア	⑧ マレーシア	⑨ ベトナム	⑩ 中国	⑪ 香港	⑫ 台湾	⑬ 韓国	⑭ モンゴル	⑮ 日本	⑯ ブリタン	⑰ スリランカ	⑱ 北朝鮮	
2011年																			
1月																			
2月																			
3月																			
4月																			
5月																			
6月																			
7月																			
8月																			
9月																			
10月																			
11月																			
12月																			
2012年																			
1月																			
2月																			
3月																			
4月																			
5月																			
6月																			
7月																			
8月																			
9月																			
10月																			
11月																			
12月																			
2013年																			
1月																			
2月																			
3月																			
4月																			
5月																			
6月																			
7月																			
8月																			
9月																			
10月																			
11月																			
12月																			

*: マカオからの輸入事例(空港で検発) (発生日、検体回収日に基づく)
 家さん● 野鳥▲ (赤: 高病原性鳥インフルエンザ, 黒: 低病原性鳥インフルエンザ)
 ※ 野鳥の高病原性鳥インフルエンザについては確認可能な日本のみ記載

長崎県口蹄疫防疫演習が実施されました

8月20日、諫早市の肉用牛飼育農家で口蹄疫疑い事例が発生したとの想定で、県下全域での防疫机上演習と、翌21日には諫早市において防疫実地演習が行われました。

壱岐振興局における机上演習では、県の警戒連絡会議にテレビ会議で参加した後、直ちに壱岐地区口蹄疫警戒連絡会議を開催し、情報の共有化と今後の防疫対応への関係機関の協力について確認を行いました。

また、壱岐地区で口蹄疫が発生した場合の防疫対応の説明や、宮崎県での実際の映像を用いた研修を行いました。



(警戒連絡会議演習風景)

あわせて「壱岐地区口蹄疫防疫マニュアル」の承認を受け、万一の発生に対し、迅速かつ的確な作業が実施できるよう、関係機関との防疫態勢の強化が図られました。

諫早市における防疫実地演習では、家畜の殺処分・畜舎消毒・殺処分畜の埋却・車両消毒等が行われ、当家保からは2名が参加しました。当日は快晴で非常に暑い中での作業となりましたが、万が一に備えた実り多い演習でした。



(殺処分演習風景)



(埋却作業演習風景)



子牛の防寒対策 ～寒い冬に備えましょう～

子牛は、成牛に比べ被毛や皮下脂肪の量が少ないため、寒さに対する抵抗力が弱く、快適に過ごせる温度の範囲も育成や繁殖牛に比べ狭くなっています（表参照）。そのため、寒冷期には子牛にストレスがかかり、免疫力の低下による下痢や呼吸器病の発症リスクが非常に高くなります。

子牛が今年の冬をより快適に過ごせるように、寒冷期の飼養管理について再確認してみましょう。

①しっかり保温してあげましょう！

牛床が糞尿で湿っていると、腹が冷え体温がどんどん奪われてしまい、下痢や肺炎の要因となります。牛床を常に清潔に保ち、乾燥した敷き藁を厚めに敷くなどの工夫が必要です。また、ヒーターで温めたり、防寒着を着せるのも有効です。

	適温域 (°C)	生産環境限界温度 (°C) ※	
		低温	高温
哺育子牛	13~25	5	32
育成牛	4~20	-10	32
繁殖牛	10~15	-10	30
肥育牛	15~25	5	30

※生産性に影響を及ぼす気温

②換気も大切！

牛舎内にアンモニアガスやホコリ等が増えると、それらが刺激となり呼吸器病を引き起こす危険性が高くなります。定期的に換気を行い、空気の流れを作るよう心がけましょう。また隙間風も大きなストレスとなるため、ベニヤ板やカーテン等を利用し防ぎましょう。

③飼料や水にも工夫を！

寒冷時は、体温維持のために普段より多くのエネルギーが必要となり、発育のためのエネルギーが不足してしまう危険性があります。ミルクや餌の量を増やすことで正常発育を心がけましょう。

また、冷たい水は牛も飲みたがりませんし、体も冷えてしまいます。ぬるま湯を与えるなどの工夫をしてみましょう。

④清掃・消毒の徹底を！

牛舎内が汚れていると、当然病気が発生しやすくなります。寒さやエネルギー不足から病気になりやすい寒冷期は、いつも以上に清潔に保ち、病気の発生を予防しましょう。



現場後代検定取得交配へ御協力を

平成25年度第2回目の現場後代検定取得交配（試験種付け）が始まります。

壱岐地区での対象牛は、壱岐産の「**鶴江平茂（つるえひらしげ）**」号です。本牛は、第10回全国和牛能力共進会において優等賞（若雄の区）を獲得しました。交配頭数は45頭、交配期間は11月15日～12月30日です。

なお、試験種付けを行った場合は補助金が交付されますので、詳しくは家畜保健衛生所へお問い合わせ下さい。

沼津出身です

☆「鶴江平茂」号のプロフィール

生年月日：平成23年2月2日生

生産地：壱岐市郷ノ浦町小牧東触

生産者：村本 久生さん

血統：雲仙丸一安糸福一平茂勝



壱岐動物愛護フェスティバルが開催されました

去る9月21日、ダイエー壱岐店前芝生広場で壱岐市獣医師会主催の動物愛護フェスティバルが開催されました。

当日は天候に恵まれ、逆に暑いくらいでしたが、その暑さに負けないくらい元気な子供達がたくさん集まり、また自慢のワンちゃんを連れた方々にも多数参加いただきました。

今年も賑やか！

当日は長寿犬の表彰や、しつけ教室、動物触れ合いコーナー等が実施され、特に対州馬の乗馬体験は子供達に大人気で行列ができる程でした。

普段触れる機会の少ない牛、馬、山羊等との触れ合いは子供達にとって貴重な体験になったのではないのでしょうか。



2名の獣医学生さんが研修にやってきました!

8月26日から30日にかけて、行政体験研修で2名の獣医研修生（学生）が来島しました。研修生は、当所職員とともに牛・豚・鶏のそれぞれについて実際に農場に伺い、各農家での飼養管理に関する聞き取り調査や妊娠鑑定、検査材料の採材検査など、家畜保健衛生所における様々な業務について学びました。すべてが新鮮だったようで、何事にも興味津々で積極的な姿がとても印象的でした。卒業後、お2人が獣医師として現場で活躍される日々がとても楽しみです。



☆研修生の感想

初めて吉岐島に来て、美しい海に感動しました。実習を通して、農家の方々が大事に育てている動物たち、そしてその環境を見ることができてとても良かったです。関係機関の方々にもお世話になり、それぞれの機関が協力し合って畜産を支えている姿にとても魅力を感じました。生まれも育ちも関東の自分にとって、農家におじゃまする機会は今までなく、自分の親よりもご高齢の方々が大きな牛を扱っている姿に、自分もがんばろう！と励まされました。大学を卒業するまであと一年半ありますが、獣医師として働けるようになったら、この吉岐島で学ばせていただいたことを活かしていきたいです。

つぶやき

すっかり秋めいてきた今日この頃、事務所の片隅で実ったスイカやトマトの写真を眺め、キリギリスは暑かった夏を思い出すのでした(⊕)。

